

令和7年度 第1回 関市廃棄物減量等推進審議会議事録(要旨議事録)

開催日時	令和7年9月9日(火) 13時30分～15時00分
会 場	わかくさ・プラザ 学習情報館2階ギャラリー
出席委員	計15名(うち委任状出席2名 足立 貴英、桜田 公明)(敬称略・順不同)
欠席委員	2名(長屋 正幸、山村 智司)(敬称略・順不同)
事務局	津谷 典男(市民環境部長)、後藤 英矢(環境課長)、荘加 伸治、中嶋 恭崇、木村 爽
傍聴者数	0名
議 題	(1) 令和7年度関市一般廃棄物処理実施計画について (2) 第2次関市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて

議事要旨

	開会
	市民憲章唱和
委嘱状交付	市長より新任委員3名に委嘱状交付
	諮問 市長より諮問書を会長へ提出 諮問書 関市廃棄物の処理及び清掃に関する条例第2条第2項の規定に基づき、次のことについて、ご意見を賜りたく諮問します。 (1) 令和7年度関市一般廃棄物処理実施計画について (2) 第2次関市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて
挨拶	市長挨拶
事務局	資格審査 審議会委員数17名に対し出席委員13名、委任状提出2名。委員の過半数の出席となり規則第2条第5項の規定により、会議成立を報告
事務局	それではこれより会議の進行を会長にお願いしたいと思います。 よろしくお願いします。
会長	それでは審議を始めたいと思います。皆様のご協力をもって進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 さっそくですが、議題に入りたいと思います。 なお今回の諮問は意見をほしいというものでしたので、決議はありません。皆様のご意見をいただければと思います。 それでは、まず1件目、令和7年度関市一般廃棄物処理実施計画について事務局から説明をお願いいたします。
事務局	議題(1)について説明。(資料1)
会長	議題(1)について質疑、意見を求める。
委員	ノートパソコンの中に入っているリチウムイオンバッテリーはどのようなルート

	で処理されていますか。また、4 ページで示されているバッテリーはどのようなものが定義されていますか。 広域災害により災害廃棄物が発生した際、それを収集運搬する事業者はどのように選ばれますか。 収集運搬許可業者のなかで優良業者の認定について教えてください。 10 ページの許可内容の区分で ABCD とありますが、広域災害が発生した際の区分についても、E として付け加えるといいのではないのでしょうか。
事務局	パソコンのリチウムイオンバッテリーについては、パソコン本体と一緒に回収しています。その後、業者が処分しています。 バッテリーの定義については、車のバッテリーのような液体が入ったもの以外を想定しています。それ以外の種類のものを回収しています。
委員	車両用の 12 ボルトや 24 ボルトの鉛蓄電池のことですね。
事務局	おっしゃるとおりです。 また、広域災害につきましては、先般、上之保地区と武儀地区でもありましたが、回収場所を決めて溜め置きをしています。その後、市が任せた収集運搬業者がクリーンプラザ中濃に持ち込み、処分しました。
委員	その収集運搬業者は選択はどのような方式ですか。
事務局	市が委託する形です。
委員	県では業者に丸投げして、組合の中で選んでもらっていますが、それとは違うのですね。
事務局	基本的には直営の業者に依頼します。ただし、それらの業者の通常業務もありますから、それを踏まえて検討します。もちろん、協会に相談もすることはあるとは思いますが。一応計画もありますので、それに基づいて実施する形です。
委員	優良業者についてはいかがですか。
事務局	市による一般廃棄物の収集運搬において、優良業者は決めていません。一般廃棄物の収集運搬はあくまでも市が行う業務ですので、補填ができない部分を業者に依頼している形です。そこに示されている業者は、言い方としては優良業者になると思います。
委員	県では許可書に優良という判子が押されたものが見られますが、そういったものはないのですか。
事務局	市でそういったものはありません。
委員	この中で、市としての認識ではなく、県や国の許可として、優良をとっておられる事業者はあるかという質問なのですが。全ての業者は優良をとってみえないということですか。
事務局	確認はしておりません。
会長	平成 30 年の津保川での大災害を経験をされていると思いますので、今後もうまく対処していただければと思います。
委員	リチウムイオン電池が最近ニュースで取り上げられていますが、モバイルバッテリーやハンディ扇風機のようなものの回収はどのような形で行われていますか。また、周知についてはどのようにしていく予定ですか。

事務局	今のところは、拠点回収という形で、市役所や事務所の7か所で実施しています。今後、正式決定ではないですが、モバイルバッテリーや電子タバコ、スマホの業者による回収が義務になってくるようです。正式決定されましたら、業者による回収拠点があることも知らせていきたいと思っています。
委員	回収した後に発火する事例が聞かれますが、関市でそういった事例はありませんか。
事務局	リチウムイオン電池か定かではありませんが、パッカー車の中で発火した事例があります。クリーンプラザ中濃でも、破碎機の周りで発火した事例もあります。ただ、今のところ、車が破壊されたり、施設が止まるような大きな事故になったことはありません。
委員	1 ページ目ですが、全体としてごみの量が減っているにも関わらず、見込みの数字がかなり高い値となっています。この数字の根拠はありますか。
事務局	令和3年の3月当時の数値を見込みとさせていただいておりますので、現実とは乖離があるかもしれません。こういった部分の見直しをするためにも5年ごとにこうした機会を設けています。
会長	その他ございませんでしょうか。ありがとうございました。続きまして2番、第2次関市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて事務局から説明をお願いいたします。
事務局	議題(2)について説明。(資料2、3)
会長	議題(2)について質疑、意見を求める。
委員	1 ページ目の一人当たりのゴミ排出量について、県内各市町村と比較するとどのくらいのレベル感ですか。関市民の意識の現れといたしますか、観光地であれば多いと思うんですけども、いかがでしょうか。 最終処分量のモニター指標で、クリーンプラザ中濃で中間処理後に処分される量をまとめたデータがありましたが、埋めたての残余容量や残余年数を教えてください。
事務局	県と比べようがないので何とも言えませんが、平均あたりだとは思いますが。 残余につきましては、こちらも正確な数字を持ち合わせておりませんが、残っている形です。ただし、ご存じのとおり、最終処分場はなかなか建設ができないような形となっていますので、持ち出しをするような形の政策としています。
委員	残余5年レベルでいっぱいなのか、30年40年大丈夫なのか、そのあたりのざっくり感を伺いたいです。
事務局	5年レベルということはないです。10年20年ぐらいはまだあるような形です。
委員	一人当たりのゴミの量でいくと、高山や下呂は900gぐらいで、東白川などは500、600gレベルとの記憶があります。関市は800gぐらいですから、平均といえば平均ぐらいかもしれません。
事務局	おそらくそうだと思います。正確な数字を持ち合わせておらずすみません。
会長	他にございませんか。
事務局	資料4について説明。
会長	資料4について質疑、意見を求める。
会長	カラー資料のプロジェクト4の高齢者世帯が困らないゴミ出しの支援の話で、高齢

	者が一番困っているのは重い荷物を運べないことだと思います。関市は来年4月から支援事業を新しく始めます。モデルパターンとして、富野地区と田原地区で始めます。今、私どもの富野地区では、車でないとなかなか運べない、またステーションが近くであっても、新聞紙や段ボールが運べない人がいるので、とりあえず、支援事業の一環としてゴミをボランティアで運ぶ代役をしようと検討しています。この資料の10ページにもありますように、市としてこういうデータを基にして、今後どうするのか対策を練ることと思います。とりあえず、今年は初めの段階として、2地区でモデル事業がスタートしましたので、いい結果が出れば皆さんの参考になると思います。高齢化が進んでおり、自分たちもいつ動けなくなるか分かりませんから、重い荷物を運んであげることをしていこうと思います。今考えているのが、独居老人などのように対象者を決めてボランティアが運ぶというのを考えています。10月頃には富野も結論を出してスタートする予定です。田原地区もいろいろ考えてみえると思いますので、それを参考に市のほうも今後対策をなされると思います。 何かご質問ございませんか。
委員	中間見直しの一つの意見としてぜひ検討していただきたいのですが、県では江崎知事の肝いりの一つとなっています、バイオコックスが最近有名になっています。ああいったところの協議会や研究会に参加されて、バイオコックスを利用していこうという動きがあります。サプライチェーンがちゃんと構築できるかどうかうまくいくかどうかということになると思います。そういったところの固めるもの、材料がなければバイオコックスは作れないわけですから、ぜひ廃棄物の再利用や、バイオマスの資源としての活用とか、効率的なゴミ処理体制の構築というテーマがあります。そういったところに市で協力できるとか、将来的に役立つことを関市でもやっているということに繋がられるような内容を入れられたらどうかと思います。
委員	3ページにございますように生ごみのことなんですけれども、この会議でもですけど、廃棄物の減量に対して考えようとのことですので、減らす部分はどこを減らしていったらいいのかというところで、もう少し踏み込んで考えてもいいんじゃないかと最近思うようになっていきます。燃やせるゴミではなく燃やすごみですね、私たちが燃やさなければならぬ状態を出すゴミ、その部分がこの数字を見ると徐々に減っているように見えます。ですが、それは結局、民間のところには市民が出したりとか、いろんなことで少しずつ減ってきているように見えるからだと思います。その中でも一番多いのは生ごみなんです。生ごみは普通に生活していて、ライフスタイルが変わらなければ、今後減っていく見通しはあるのかなと思うんです。人口はもちろん減っていきますので、ごみのボリューム自体は減っていくのかなと思ったんですけども、ひとりが出す量が本当に減っていくのかを考えて、一番は水分が多くて、一番化石燃料をつかって、クリーンプラザ中濃で燃やさなければならぬゴミに対して、もう一步踏み込んで考えていただけないかなと個人レベルでは思うんです。橋本さんのような民間業者に委託し、委託したところで生ごみを引き取っていただいて家畜の飼料にしているようなところもあったりするんですが、一番は私たちが出す量を減らしていかないといけないと思います。もちろん、一生懸命計画を立ててある程度は減っていくと思います。ただ本当に生ごみをいかにしていくか。どうしても生ごみ

	ですので、腐敗が進みますし、不衛生であるというお話も前に市の方から出ました。もちろんそうです。ですけども、腐敗のしない状態でそれぞれの家庭から出すような形、例えば、グリーンダンボくんのような形ですとか、ダンボールではなくても、ただ自分の出したごみにもととなる基材を混ぜ込んで出すようにすれば、自分の家に置いてある時間に、腐敗がある程度抑えられます。それを回収してできたたい肥は、使うところがないと書いてありますが、もしたくさんできれば、市民に開放すればいいと思いますし、そこでできた、たい肥化の材料をまたそれぞれ出す人に配って、循環させることができないことはないと思っています。まだ自分のイメージにとどまっているんですけども、モニターを募集したり、ある地域だけで実施したり、企業さんで実施して、その企業に勤める方が毎日生ごみの混ざった母材をもってきて、それを市が回収して、たい肥化する。そういったように、もう少しいたい肥のイメージを大きく膨らませて、生ごみを使った大量のたい肥をつくるといったイメージでごみを減らしてはどうかと思います。生ごみといいますけれど、結局は有機物で、腐らせないように出せば資源だと思っています。いかにゴミにしないかという部分を基本計画でも考えてほしいと思います。
事務局	なかなか難しい部分もあると思いますが、進んでいる自治体もあると思いますので、そういったところを研究しながら、取り入れられる部分は取り入れていきたいと思っています。
会長	実は3年ほど前から、市の前の担当者が生ごみを再生して肥料を作る取り組みをされていました。それも結構効果があるみたいですが、やっぱり施設を作る問題ですとか、関市の予算の問題もあります。農家も多く、結構肥料を買うのも酷になることから、この取り組みは効果はあると思いますので、ぜひともその方向で、話を進めていただきたいと思っています。
委員	やはり回収とかたい肥をつくる費用はかかるとは思いますね。ただ、燃やすごみを減らして、その部分にかかっていた燃やすための費用をたい肥化に使うというようなふうにシフトしていかなくちゃいけないんじゃないかと思っています。
会長	そうですね。やはりいろんな絡みがあると思うんですけど、構築すればできると思います。折角分別も進んでいるんですから、生ごみもやるということで考えればできないことはないし、実際やっている自治体もありますよね。
事務局	団地ごとでやっている自治体はあると思います。あくまでもやはり住民の方々の協力がないとできないことだと思います。
委員	なかなか全体の啓発活動だけではこの先立ち行かない場面が来るんじゃないかと思うんです。ですからもう少し踏み込む機会になればいいと思います。
事務局	ご意見ありがとうございます。
委員	私は環境ネットせきという団体でばかしづくりや段ボールコンポスト講習会などを行い、ゴミに対していろいろな活動をしているのですが、最初のころよりも参加者が減っています。ということは、市民の中でも関心がなくなってきています。生ごみはごみに出せばいいという思いの方が多いのだと思います。ぜひ私はこの中で聞きたいのですが、家庭で生ごみを出していないよって方、全部畑などどこかで処理している方。手を挙げた方は4人ですね。ということは、この中でも意識が薄い。私はそう

	思います。職員の中でも薄い。だから常々言いますが、いくら啓発しても、講習会やっても勉強会やっても、意識がない方は来ない。興味を示さない。ということは、自分たちがやっていて、すごく虚しい。だから、皆さんも意識をもって、もっと想いをもってこの先活動していったほしいと思います。お願いします。すいません。
委員	ごみの成分調査ですが、今、生ごみがどのくらいあるかとかの調査はやってらっしゃいますか。
事務局	4, 5年前にやった経緯があります。
委員	今おっしゃったことも含めて、そういう成分調査の中でも生ごみが随分あれば、それを示していただいて、また検討していただければと思います。
委員	去年うちの子どもが夏の研究で「きえーろ」というコンポストで生ごみのたい肥化をしました。簡単にできる方法で、家にあるプランターに、水はけをよくするために穴をあけるなどいろんな工夫をして、土をのせて、その中に生ごみをいれたらどのくらいで消えるかなということを研究をして、年間どのくらいのゴミが消えるのか、水分量の平均がどうのこうのといった研究をしたことがあって、夏休みが終わってからも自分でも引き続きやっていました。ただ、生ごみを入れる作業も意識すればやれることなんですけど、家族の協力もなかなか得られないということで、まばらにやっているような状態です。だから先ほど思い切って手を挙げられなかったんですけども。一つの案として、小中学生の研究課題としてやれば、親もやらざるを得ないところもあると思うので、子どもをダシに使うというと表現が悪いんですけども、そういったところから家族のごみに対する意識を変えていくというのでもいいんじゃないかなと思います。
委員	ダンボールコンポストの講習会を年に 2、3 回、あと要請があれば公民館などでやるのですが、親子向けの講習会を 6 月ぐらいにやりました。夏休みに子どもさんが研究できるようにということでやるのですが、今年は 4、5 組みえました。それも夏休みにやり、結果がどうなったか分からないですが、長続きしない、それだけで終わってしまう。じゃなくって、ごみは年がら年中出るから、ずっとやってもらわないと、夏休みだけ、研究だけではなく、ずっとやってほしいなと思います。
委員	10 人やればそのうちの 1 人は続けてくれるような意識でやるのか、最初からインセンティブつけるのか、いろんなやり方があると思います。たい肥にしてまとめて移動させるというのも、かなり大変だと思います。家庭のプランターに 1 週間に 1 回でもいいから生ごみいれてみませんかというような、そういったところで気軽に始められるような形がいいのではないかと思います。
事務局	先ほどのご意見の補足なのですが、去年からエコポリス事業を始めまして、これは子どもさんをダシに使って、子どもさんと冷蔵庫の中の賞味期限切れのものを探してみましようとか、自分の家が出すごみの量がどのくらいか調べてみましようというのをやってみたりしています。今言われたように、子どもさんから親さんにいうのが一番効果があるだろうということで昨年度から始めています。今年度も別のやり方かもしれないと思いますが、継続してやっていこうと思っています。
委員	続けるために何かインセンティブ的なもの、例えばせき Pay で 100 円とかがあったら子どものお小遣いになったりすると思います。

事務局	一応、景品は出させていただく予定です。
委員	まあそれがどのくらい効果があるのかは分かりませんが。
会長	今のような啓蒙的なものも必要ですし、自治連のほうでも提案して、各自治会のほうでこれから検討もできるようにしていきたいと今感じました。
委員	全体としてのごみの量は減っているからいいじゃないかという考え方もあると思いますが、まあそうじゃなくて。
委員	処理費はかなり上がっていつにいつに上がっていますので、これをどう評価するかですね。もちろん先ほどもおっしゃったように、今物価高の影響もあると思うんですけども。それにしても、とにかく燃やすことで恥ずかしいほどの熱量を放出するわけです。みなさんスイカとかを召し上がってスイカの皮を全部ごみに出されませんか。先ほど自分のところでたい肥化すると答えられた方以外は大体生ごみですよ。あの水分量と重量を燃やすためにどれだけの化石燃料が燃やされるのかと考えると、やっぱり少しずつ、早く始めないといけないと思います。きっとライフスタイルは変わらないわけですから、今の暮らしを維持していくためには、少しでも早く何とかしないと子どもたちにこの先の生活を保障してあげられないような気がします。ぜひご検討していただければと思います。
会長	いい意見だと思います。市のほうも中心的に啓蒙してください。
事務局	ありがとうございます。
会長	他に何かご意見はございますか。 今日は活発なご意見ありがとうございました。時間も来ておりますので、審議はこれで終了させていただきます。では事務局のほうよろしくお願いします。
事務局	本日はどうもありがとうございました。いただいた意見をもとに、第2次関市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しを進めてまいります。次回また改めてご審議をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。以上で審議会を閉会させていただきます。お帰りの際は交通事故等に十分お気を付けください。ありがとうございます。